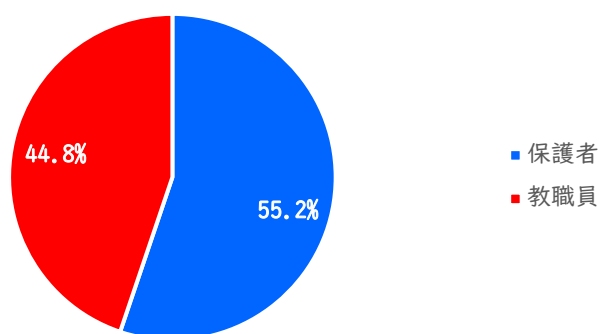


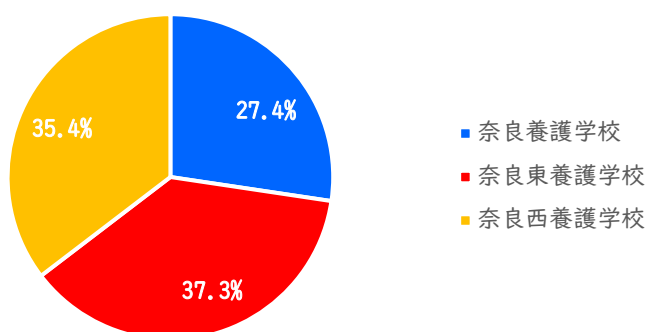
新設する特別支援学校に関するアンケートまとめ

I 保護者・教職員用（回答 212 名／配布 1002 名）

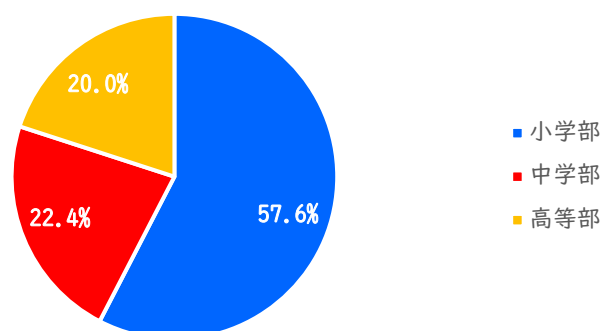
1. 回答者の立場を選択してください。



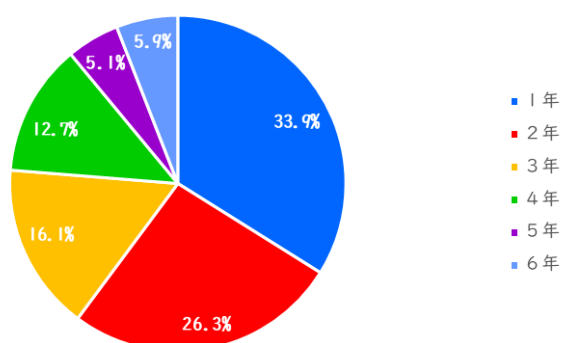
2. 学校名を選択してください。



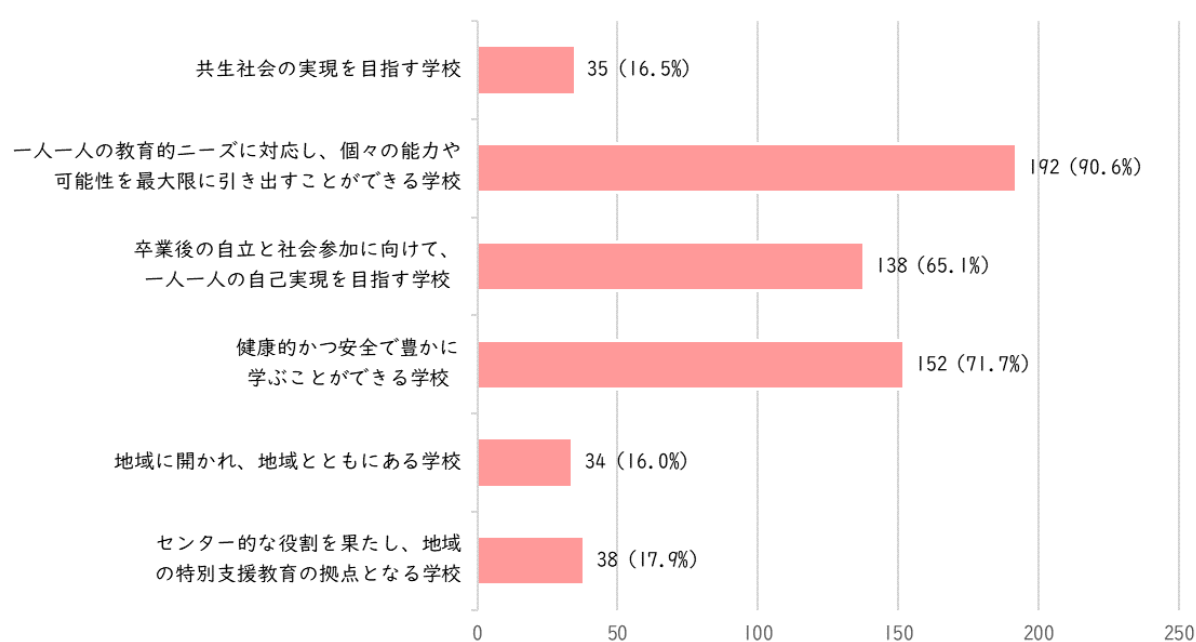
3. お子様の学部を選択してください。ご兄弟がいる場合は、下の学年のお子様について回答してください。（保護者のみ回答）



4. お子様の学年を選択してください。ご兄弟がいる場合は、下の学年のお子様について回答してください。（保護者のみ回答）



5. 基本構想案の「2. 目指す学校の方向性」について、特に期待する項目を選択してください。（3つまで）



6. 基本構想案の「2. 目指す学校の方向性」について のご意見や、新しい学校に期待することを入力してください。（自由記述）

※文章は記載された通りの表記としています。

【保護者】

- 1, これからどんどん増えていく医療ケアを必要とする子と親が社会から隔離されることがなく、生活を送ることができるように支援の要素も加えてほしい。これからの社会で、障害のある子の親でも何も問題なく働くことができるようにしてほしい。
- 2, ニーズに合わせた教育が充実し、実行される事。
- 3, 安全であることは大前提ですが、個々の能力を最大限に引き出すことのできる能動的かつ可変性のある環境を期待しています。また、肢体・知的、そして地域と分断されすぎることなく、同じ空間や知識、経験を共有する時間も大切にして欲しいです。
- 4, 安全性を担保しつつ、デジタル化によるコミュニケーションの負担や齟齬を減らす。
- 5, 健常の方にも障害児理解が進むよう、敷地内に誰でも利用できる、インクルーシブ公園(生徒たちは体育や遠足、社会や理科的な授業でも使える)を建設してほしい。また、うちの子は公園が大好きだが、家庭から連れ出し普通の遊具で遊ばせるのは一苦勞なため。
- 6, 高度な療育・教育を行う施設として、ハード面ソフト面の充実を図るのが最優先だが、地域に開かれた学校施設であることも大切だと思う。感染症対策や防犯上の問題をどうクリアするのか不安だが、安全のために閉鎖的排他的になるのは学校の孤立化を招きかねない。敷地内に児童生徒や教職員等学校関係者と地域の人が交流できる(双方向で出入り自由なカフェのような)空間を作るのはどうか。大学の敷地みたいに地域の人が散歩したり憩えるような小さな公園のような場所を作るのは？感染症対策や防犯についてのルールの設定は大前提だが。
- 7, 児童生徒の特性に応じた教育内容を実施出来るように、教職員保護者の要望を取り入れた施設の充実と医療的な側面からのアプローチを図れるように人員と予算をしっかりと配置して欲しい。
- 8, 先生、看護師さんの増員。
- 9, 選択肢はどれも必要だと思います。個別性と将来生活していくための地域との共生は早い時期からしていくからこそ地域に浸透して実現していくものです。知的と肢体でニーズは違いますが、教員や職員の配置により専門的な教育が受けれるような環境を作ってほしいです。
- 10, 卒業後の自立に向けた学習ができるようになるのはありがたい。
- 11, 卒業後の進路を小学部くらいの頃からもっと詳しく知りたい。

- 12, 保護者の意見、先生方現場の意見をたくさん聞く機会を作って欲しいです。
- 13, どの県立の養護学校も校舎が古く、とても地域の災害時避難場所には適さない上、トイレも未改修で子ども達にも良くない。また、予算が低いのか、設備維持に PTA 会費で補填穴埋めしているところもあるため、地方財政法上グレーでは？と考えます。学舎の安全面を考えたら新しい建物は生徒にとっても教職員にとっても良いと思うので期待しています。
- 14, とりあえず教室の不足や教員の不足など最低限の事を先ずクリアして頂きたい。また、本人への合理的配慮など。いずれも基本的な事をちゃんと、きっちりやってもらいたい。また、卒業後、親亡き後に自立出来るスキルを身に付けさせて欲しい。家庭でも頑張っていると思いますが、包括的に取り組んで行けるのが望ましいです。
- 15, のびのびと安全に子どもたちも先生も活動できる環境があればと思います。
- 16, のびのびと子どもらしくし、社会性を育める場所。
- 17, やはり全ての方向性において適任の先生の存在は欠かせないと思うので、先生の専門的な知識の教育や人間性は大事だと思います。またそういう先生を大事にしてほしいです。
- 18, 課題をいっぺんに解決できるのだと思いますが、知肢病併置校の実現はとても難しいのではないかと感じています。
- 19, 学校生活における、集団生活への適応、高校卒業後の生活のための自立度の向上、この2点の強化を目指して頂きたいと思います。支援学校に通わせて貰ってる間が、結局が一番手厚い支援を受けていると思っています。本人にとっても、家族にとっても、実生活の直接的なサポートは勿論、何より精神的に本当に支えて貰っています。しかし、卒業後はそれまでの「支え」が確実に減少するわけですから。けれど、一番大事なのは、本人がサポートして頂く介助者の方や、卒業後の生活基盤になる施設や事業所の職員の方とできるだけ無理なく交流し、楽しく生きていけるように、その先を見据えての学校生活も楽しく過ごせるように本人に無理のない範囲で導いてもらえるような、療育方針の学校であって欲しいと思います。
- 20, 教室の数や広さ、トイレの美化等の設備。
- 21, 軽度判定の人は地域の学校へ行ってほしい。少人数を望む。
- 22, 建物を安全で気持ちよく過ごせる空間にしてほしいです。
- 23, 現在奈良県は知的と身体障害のお子さんを分けた学校にしているが、知的に通っていても看護師が必要な生徒がいたり、身体から知的に転校することになり、生徒さんに負担がかかるため、統一されれば良いなと思っています。
- 24, 個々に必要な支援に、できる限り寄り添っていただけることを期待します。施設整備など今までより安全面に考慮していただけるとありがたいです。
- 25, 個々の能力や可能性を最大限に引き出し出す事の出来る学校を期待します。
- 26, 個々への対応。

- 27, 個人の特性をのばしてほしい。
- 28, 今まで寛容に見ていた軽度やボーダーラインの発達障害のお子さんが増えて、支援級がそういったお子さんで溢れてきて、地域の小学校が中度や重度の子供たちを受け入れることが難しい世の中になってしまったので、そもそも、そこが問題だと思う。校区が広いので、もう少し小さく区切ってほしい。
- 29, 子どもたちが安全に楽しく学べる場であることを期待します。
- 30, 子供にあった生活、学習、得意な事があればそれを伸ばしていける授業。
- 31, 子供達が安全且つ快適に過ごせる環境。
- 32, 施設が新しくなる事により、より安全に子供達が過ごせる環境をお願いします。トイレや毎日使用する場所は特に使いやすい設備をお願いしたいです。卒業後の自立に向けて、学校で実習、実施出来る体験を増やしていただけることを期待します。本が好きな子供も多いので、学習や娯楽としての図書室の充実もお願いしたいです。
- 33, 肢体不自由の方には知的障害が重くない方もいらっしゃると思いますが、本当に一人一人の教育的ニーズに対応していただけるのか心配です。
- 34, 事業所とは連携してほしいですが、差別化はしてほしいです。あくまでも「学校」で出来ること、すべきことを目指してほしいです。
- 35, 生徒も教師もゆとりの精神で居られる学校です。
- 36, 専門的知識と経験のある先生を増やして欲しい。
- 37, 素晴らしい理念だと思います。ただ、違う特性を持つ子どもたちが一緒に通うことで、これまでのような専門的な教え方が守られるのか、少し心配です。また、先生たちの仕事が大変になりすぎてしまわないでしょうか。子どもたちが安心して過ごせるよう、しっかりとしたバックアップをお願いしたいです。
- 38, 卒業後の就労を考えていく事。
- 39, 卒業後の進路が一番不安なので、そのあたりのサポートが手厚いことを期待したい。
- 40, 知肢病併置校になるには、特性に合わせた各施設は別で設備を整えて欲しい。体育館、プール、トイレなど同じ施設の場合、使用時間が縮小されたり、不自由が生じられると思われるから。
- 41, 知的障害児と肢体不自由児が一緒になることに不安を感じています。意図せず肢体不自由児の装具や器具に触れて怪我をさせたりしないか心配です。
- 42, 特性が強く地域学校では通学が困難な障害児が義務教育として通う学校なので、教育委員会が定める課題を優先にするような障害や特性を抑えるような場所ではないことを期待したい。
- 43, 迫害されることなく一生を終えられる、詐欺に引っかからない、生活の為の結婚をしなくてもいいように整える。
- 44, 物理的なスペースが必要な子供が多いです。新設校以外の学校にも配慮して欲しいです。

- 45, 保護者としては卒業後の進路、親亡き後が一番心配ですので、情報提供や相談の場など在校中から卒業後までサポートして頂ける機能がより一層整備充実されることを切に期待しております。

【教職員】

- 1, 健康かつ安全な学校、というのが最優先。安全があつてこそ、それぞれのニーズに対応した子どもたちの能力を引き出せると思う。そのことが卒業後の自立と社会参加につながると思う。誰もが安全で安心して過ごせる場所になってほしい。知的の学校と肢体の学校が一緒になるという不安が一番大きい。バス発着場、運動場、体育館、プールを含め、動線が交わらないのは当然のこととして確約して欲しい。
- 2, 児童生徒、教職員、保護者のニーズ、願いや意見をしっかり取り入れて、関係者で共につくっていくこと。
- 3, 児童生徒の重度重複化を踏まえた充実した設備のある学校を期待します。
- 4, 障害種別の特性に配慮したハード面について、安全に学習が進められるような設備が備わった上で目指す方向性を指向できるようになってほしい。
- 5, 身体をしっかりと組みめるスペースや道具があれば嬉しい。
- 6, 知肢病併置であることが、お互いにとってプラスになるように生徒間での交流や教員、保護者も含めて情報交換など行いながら特別支援教育を充実させることができる学校になってほしいです。
- 7, 地域に根ざして、みんなで育てていくことができる環境。知的、肢体が交わるので、お互いが理解しあえる環境を整えたいです。
- 8, 地域の子どもたちや大学生などとキャンプや宿泊、スポーツなどで交流できる施設としても共生社会の実現として担って欲しい。
- 9, 特に高等部では進路や社会に向けた学校。
- 10, 特別支援学校を特別にしないで、地域に開かれた場所にして下さい。例えば、住宅地の中にある学校なので、門を閉めないで、高等部の栽培や制作品をカフェ販売などで、地域のお年寄り、お母さん達がこれる場所。対等な関係で社会人の練習ができる場所。
- 11, 奈良県内の特別支援教育の拠点となり、近隣地域・他府県支援学校からも見学等に来てもらえるような学校となれるように、施設設備も最新のものを取りそろえてもらえるといいなと思います。
- 12, 病弱教育、肢体不自由教育、肢体不自由訪問教育と、現場だけでも児童生徒の実態が違う上、教員の授業時間帯に差があり、会議等の日程がタイトになっている。さらに知的部門が加わると、全く足並みの揃わない事態が起こると考えられる。世の

流れて知肢併設校が増えたけれど、他県の知肢併設校の先生方複数人に、あちこちから実態を聞いているが、上手くいっている事例を聞いた事がない。「上手くいかない」と分かっているものを、多額の資金を投じて、遅れて追いかける必要性は全くない。特に弊害が起こるのは「専門性の担保」である。どうしても、肢体不自由サイドの専門性が薄れるどころか廃れてしまうとのこと。限られた研修・研究の時間も自分たち（肢体不自由・重度）の専門的な話についてはマイノリティーに当たるので深める事ができず、大多数を占める知的のテーマが取り上げられがちと。肢体不自由の専門性は、何年もかけて身につけていかななくてはならない、マルチな分野にわたる、かなり難しいものだと感じている。廃れてしまうと、１０年・２０年スパンで取り戻せないものになるかも知れない。敷地は同じでも、運営を完全に分けて考えた方が質の高い教育が担保される可能性が大きいと思う。奈良は奈良で、両者が間違いなく上手く運営していける方向性を考えて行くべきだ。

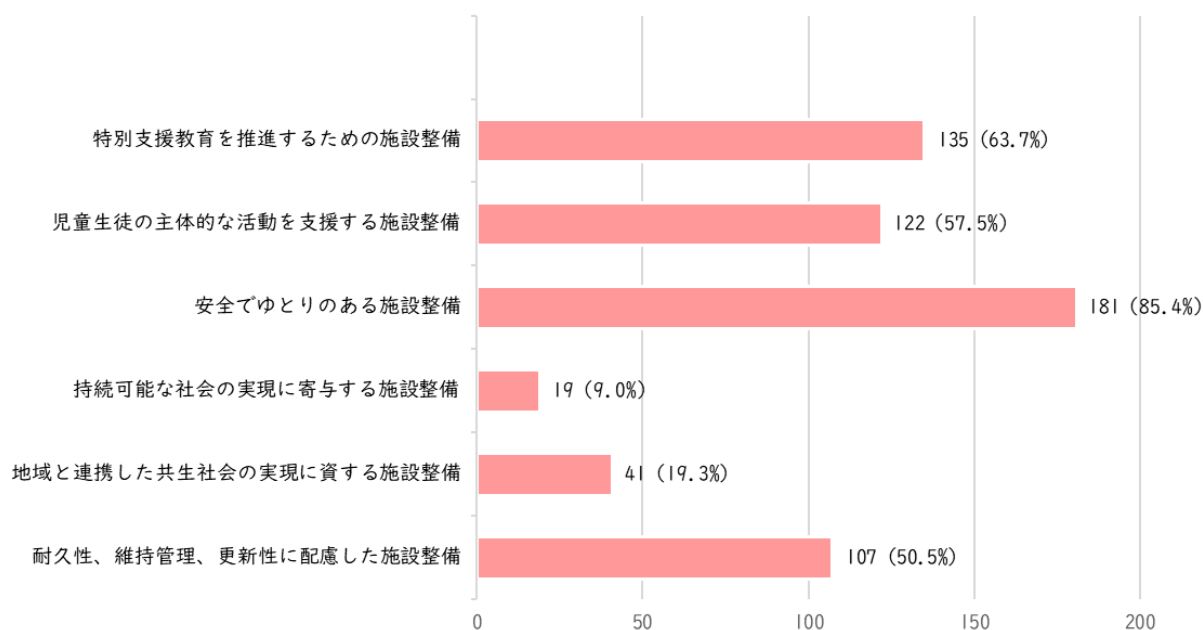
- １３、 「２．目指す学校の方向性」について①～⑥まで示されていますが、現在の奈良養護学校、奈良西、奈良東の教育方針の継承を検討することなく「案」として提示されているのでしょうか。今回は「移転」であるため、奈良養護（肢体部門、病弱部門）に関しては「変更なし」。知的２校については、学校間のすりあわせを経て「案」として公表すべき物であると考えます。
- １４、 １人１人のニーズに応える。
- １５、 いろいろと幅広くあげられていますが、どの内容を特徴とするのかを明確に提示できるといいなと思います。
- １６、 とりあえず、必要な施設を設置するというのではなく、使える施設にして欲しい。特に、高校には保証されている広さが特別支援学校では狭いなどがよくあるので、差別のない施設を設置して欲しい。
- １７、 まず、心にゆとりをもって学校生活を送れる環境（じゅうぶんな教員数、教室、施設設備の充実）にしてほしい。それが安全安心な学校作りにつながっていると思うので、期待しています。
- １８、 まず児童生徒が質の高い教育を受けられる学校。
- １９、 安全でゆとりある施設整備について、事業所の車の多さが予想されますが、近隣の道路が広いとは言えないので、敷地内でスムーズな乗り降りができる導線確保を望みます。
- ２０、 一人一人に合わせた支援を１番に考える事が重要と感じるため。
- ２１、 各学年のベースとなる計画と、１２年間を見据えた計画を立てて、その中で臨機応変に教育を施していく学校を期待します。センター的機能を果たす！
- ２２、 基本的に在籍する児童生徒の発達と自己実現を最大限に伸ばせる学校環境(物理的にも人員面でも)と卒業生にも敷居の低いいつでも相談に来られる学校になって欲しい。

- 23, 教職員がその方向性を十分に理解し、肢体や知的という障害区別にかかわらず協力すること。教職員のみならず地域や関係者との連携を常に定期的に確認すること。より良い新しい学校、より良い奈良県の特別支援教育を考えるセンター的役割の発信。
- 24, 個々人の能力を引出し育て、卒業して社会の中で生きて行ける人を目指す。
- 25, 個人の個性を伸ばし、安心出来る学校。
- 26, 子供たちが豊かで安心して学習に取り組める環境であってほしい。
- 27, 児童生徒がのびのびと学ぶ場であると共に、教職員にとっても働きやすい環境であることを期待します。
- 28, 児童生徒が安心して安全に教育を受けることができるだけの教員数の確保と教室の確保。
- 29, 新しい学校は知肢併置です。安全安心な学校であるには、教育的ニーズが異なる児童生徒の実態が在籍することを前提に、肢体不自由部門、知的部門それぞれに必要な施設設備を備えた学校であることが大前提となります。例えば、肢体不自由部門には人工呼吸器の最重度の児童生徒がおり、一方で知的部門には多動で衝動性が高い児童生徒が在籍することになります。最低限、校舎やスクールバス、体育館などの施設設備は肢体不自由部門と知的部門でわかれていないと、学校運営上、規制の多い環境になってしまい、今までの教育効果を維持することも難しくなるでしょう。教員も児童生徒の安全を守り、児童生徒に十分な教育を保障できるのか、不安です。奈良東は（奈良西も同様だとは思いますが）教員数が年々厳しくなっており、これまでできていたこともあきらめざるを得ない状況も生まれてきています。児童生徒一人ひとりの持っている力を最大限引き出せるような学校にするには、できるだけ規制を少なく、ゆとりある教育環境が必要です。施設設備面の充実と教育を行うに十分な教員数の確保を切に願います。
- 30, 他県では知肢混合の支援学校で、経験不足の教員が無理をしながら指導にあたっている話を聞きます。そういったことが無いよう、どちらの部門の児童に対しても十分に学びを与えられるような人材育成などを積極的に進めていただかないと、混合の支援学校になるとどうしても専門的な知識を共有する機会が減ると思います。
- 31, 地域との交流を重ねることで、特別支援学校への壁が低くなり、センター的機能がより活発に行え、地域全体が活性化し特別支援学校の児童生徒も個々の可能性を引き出すことにつながると思う。
- 32, 特別支援学校ではなく、地域の小中高等学校が共生社会の実現を目指したモデル校を新設するべきではないかと思います。奈良養護学校として新設し、知的学校の過密化は別の施策で解決していくことを強く期待します。知的部門の生徒数が増加し、肢体不自由部門の生徒たちの学習する場を圧迫することは簡単に予想できると思います。設備や施設の共有もできる場所があれば、できないこともあると思います。

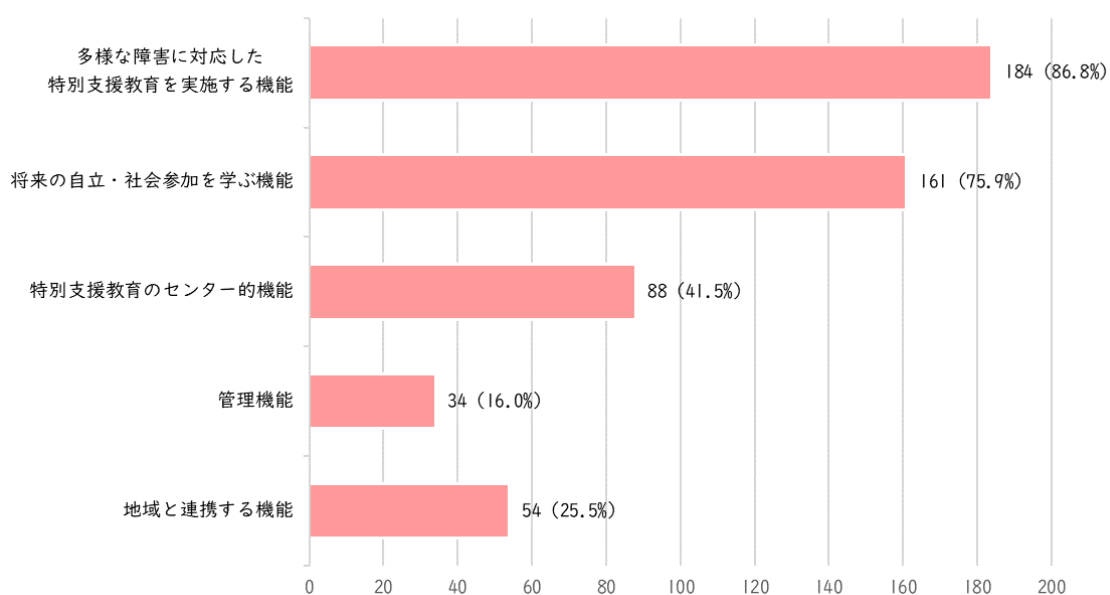
限られた敷地や予算の中でできることは限られていると思うので、単純に新設奈良養護学校として学校を建設されたほうがわかりやすいと思います。他府県の話聞いても、なぜ今知肢併置の新設校という選択をするのか理解できません。

- 33, 本来病弱で学ぶべき精神の生徒が受け皿となる学校がなく、各知的校の高等部に多数在籍している現状がある。「他に選択肢がないじゃないですか」と保護者に言われたこともある。また、本来高等養護で学ぶべき実態の生徒が、通学時間がかかりすぎるために諦めたという声も耳にする。また、強度行動障害の生徒の高等部卒業後を見ると、今の学校や教育課程が生徒にとって適していると思えない。一人一人の自己実現を目指す学校づくりの1つとして、強く強く、切に願います。すべては子どもたちのために！という思いのもと、現場はこれ以上ないほどにギリギリのところ、日々なんとか持ち堪えながら頑張っている。生徒数は増加する一方、教員数も教室数も足りず、時代の変化に伴い様々な業務が増える中、対保護者や教員間での過度なストレス等による突然の欠員などが多い。そんな疲弊しすぎている現状を、果たしてどれぐらいの人(教育委員会や議会の方々の中で)が理解してくださっているのかと、正直不安です。もちろん我々現場の教員とは違うところで、日々本当に膨大な業務に追われていることと安易に想像はできるが、であったとしても現場としては、やはり新設校の動きの遅さには失望するしかない。一日でも早い開校を期待すると同時に、日々ギリギリのところにいる現場に、少しでもよいので見通しをもてるように何らかの見通しを示していただきたい。本来この場で述べる意見ではないが、教員数の配当について、一言だけ自身の思いを伝えたい。現在の知的5校の教員比率は、各校の開校時の比率がなぜかずっと維持された状態である。同じ知的の学校であるにも関わらず、5校それぞれで比率が異なることはどう考えても不平等ではないか？今一度、その辺りのアンバランスさの解消についても、新設校の開校と同様に、強く強く望みます。

7. 基本構想案の「3. 施設設備の基本方針」について、より積極的に整備すべきだと思うものを選択してください。（3つまで）



8. 基本構想案の「4. 施設の機能の整理」について、より充実させた方が良くと思う機能を選択してください（3つまで）



9. 基本構想案の「3. 施設設備の基本方針」や「4. 施設の機能の整理」についてのご意見、また施設について、特に配慮すると良い点などを入力してください。（自由記述） ※文章は記載された通りの表記としています。

【保護者】

- 1, 施設の機能の整理①の案にもある通り、廊下、トイレにも空調を整備してほしい。
②の案の作業学習室、喫茶実習室、雨天利用可能な農場、はとても良い案だと思う。
社会的ルール等、知的障害があると座学では理解しづらいので実際に動いて勉強できるのが良い。
- 2, 7の問いの立て方に疑問。学校内の充実を図る項目は大前提であるのにわざわざ優先をつけたら、地域連携や共生社会に関する整備は後回しにせざるを得ない(選択できない)ように回答させられる感じがする。地域に開かれた学校、共生社会の実現を推進する学校はあるべき姿だが、親なら子どもの安全とより良い療育・教育のために学校設備をまず充実させてほしいと思うのは当然。どの業界もそうだが、現場は常に人手不足。新しい建造物に対地域の機能を持たせるだけでは意味がない。教育現場に多様な人が入ることによって地域に開かれた学校を実現させ、また教職員の負担軽減にもつながるのでは？但し、コーディネーター(ソーシャルワーカー?)は要と思う。
- 3, ちはスクールバス利用のせいか、ほとんど学校に行くことがなく、未だに校内で迷子になりそうになる。どこになんの教室があるのか、分かりやすくしてほしい。
多目的ホールは、参加人数や規模によって二部屋三部屋と仕切って使えるようにしてほしい。やまゆり園のような事件が心配なため、地域交流は活発に行ってほしいが、警備をしっかりして欲しい。②はすごくワクワクして楽しみである。
- 4, 教室に1つベッドを設置して欲しい。
- 5, 最新の国内外の事例も踏まえて、記載していることが実現できるように進めてほしいです。奈良養護では温水プールは現在壊れていて使えないので、どの学年でもどの障害種別でも無理なく楽しめるような環境を整えてほしいです。受動的ではなく、能動的に動けるような環境づくり、そして、たとえば必要な場所にはリフターを導入するなど、介助者にも生徒にも優しい環境設計をしてほしいです。遠隔または訪問などで、生徒が住む地域校との連携も対応できるように環境を整えてほしいです。非常時の福祉避難施設としても想定してほしいです。
- 6, 実際に使用する教職員や保護者の具体的な要望をしっかりと取り入れ、予算を確保し、施設設備の基本方針を満たした学校にして頂きたい。また、肢体不自由の児童生徒が運動の授業を行う際に、理学療法や作業療法を行えるようなりハビリルーム室のような専門的な部屋を整備して頂きたい。

- 7, 耐久性維持管理更新性には、特に力を入れて100年後でも、存在する学校となる様。
- 8, 地域との共生について、障害のある子供と出かけれる場所のごく限られていて、諦めている現状です。世の中で子供の遊び場が増えてる中なかなか私達には楽しめる場所が増えている実感は無く、よほどのメンタル、根性が無ければ地域の子育て遊び場は行こうと思わない。特別支援学校が出来るのであれば休日出かけれる場所ができるの良いなと思っていたが、そこも地域との共生と言われてしまうと、またどうせ行けないんやろうなって思ってしまった。インクルーシブとはいうものの、本当に実現出来てる？そういう思いで企画されていても実際私達はそこへ出向いてはいけてない。どうせ健常児だらけでいっぱいなんだろうなと諦めています。ほかにも遊びに行ける場所がたくさんあるなら、譲ってほしい。特別支援学校がある休日解放されるような場所を作るなら、優遇して行けるようにして欲しいなと思っていました。
- 9, 奈良養護学校では施設の老朽化や環境整備ができていないことで、プール学習が十分できませんでした。また、屋外での活動がしにくい環境でした。肢体不自由児にとってプール活動はとても大切です。持続してできるようにしてほしいです。
- 10, いろいろ詰め込みすぎてスペースが足りるかが心配。
- 11, それぞれの施設の具体的な案を出されていて、ぜひ実現していただきたいものばかりです。よろしくお願いします。
- 12, トイレトレーニングができやすいようなトイレづくり。
- 13, バリアフリーで安全が確保された安心できる場所になるように、校舎に資金をかけて作って欲しい。また、現場の先生方の意見を取り入れ、必要とされる部屋、物品を充実させて欲しい。
- 14, バリアフリー的な設備も有ればと思います。
- 15, 安心安全にすごせる環境であり、窮屈な思いをしない設備。
- 16, 安全が1番大事かと思います。安全柵などの他、1人で出て行ってしまうようになるべく万全の対策をお願いします。
- 17, 安全をお願いします。
- 18, 安全に過ごせる施設。
- 19, 看護学校と併設の場合、知的と身体の両方となると、狭すぎる。学校の設備や駐車場、バスロータリーなど広さが足りない。先生方の教育への子ども達への指導も場所も大変になる。現在の奈良西でも、高校の跡地をすべて利用している。知的か身体のどちらかにすべきではないか？あと、知的の方は、途中で転校になるのは、避けてほしい。高校からなら3年、中学なら6年、小学校なら12年で、親も学校もその子のことを考えているので。
- 20, 現在、小学生、中学生、高校生はごちゃ混ぜにされており。ある程度分離した施設

にした方が良いのでは？と、思います。入口などは、分けるなど。成長過程で、全て一緒に良いと思えない。

- 21, 個々の能力を伸ばせる助けになるような設備。
- 22, 構想案はすべて素晴らしいものだと思います。予算などの関係によりすべてかなえる事が難しいということは承知していますが、予算も考慮しつつ、子供達が安全で安心して過ごせる空間を強く希望します。
- 23, 子どもたちの安全を第一に配慮お願い致します。
- 24, 子供たちが、不自由なく使用でき、負荷のかからず、安全な施設になるよう配慮をお願いしたいです。
- 25, 自制が難しかったり危険予測、危険認識が難しい子どもさんも多くおられると思いますので、安心して安全に学校生活が送れる環境整備を継続して頂けると有り難いです。
- 26, 車送迎に対応した外周。
- 27, 周辺道路の歩道整備などは徒歩登校には不可欠になるが、現状道幅等が狭い箇所が多くあり、整備が必要だと思われます。
- 28, 床に落ちたものを口に入れてしまう子、つばなどを壁に塗りつけたりする子、知的障害児もさまざまいます。清潔で明るい施設を望みます。特にトイレ自立訓練中の子ども多いので、トイレは明るく、スペースにゆとりのある空間にしてほしいです。体感温度に鈍感な子ども多いので、冷暖房完備してほしいです。
- 29, 新しい材料で気持ち悪くなったりしないよう、安心な材料を使ってあげてほしいです。
- 30, 新しくできる学校なのでもちろんより良い建物・環境・設備になるのですが、既存の支援学校と差があり過ぎる形になるのが、保護者としては何とも複雑です。
- 31, 設備を設置しっぱなしで維持メンテナンスが出来なければ何の意味もないので、しっかりと予算配分を適切に配して安全性維持管理、清潔度維持管理を行って欲しい。
- 32, 知的障害の子が医療的ケア児の子の医療機器を触ってしまう恐れに配慮が必要だと思います。
- 33, 地域開放は学校以外の施設で行ってほしいです。防犯面もありますし、我が子を可哀想な存在として情操教育の教材にされるのは気分がよくありません。ただし、福祉系の学生の方など志のある方の受け入れはどんどん進めてほしいです。
- 34, 天候に関係なく入れる室内温水プールはとてもいい案だと思う。
- 35, 特になし。
- 36, 内容はどれも素晴らしいものばかりで、実現してほしいと願っています。ただ、今は生徒が増えて教室が足りないという問題が、年々ひどくなっています。新しい学校ができるのを心待ちにしていますが、一日も早く子どもたちがゆとりを持って過ごせるよう、スピード感を持って進めていただきたいです。

37, 老朽化しているトイレのバリアフリー化等を進めていただければと思います。

【教職員】

- 1, トイレの整備(広めでプライバシーに配慮したものが必要)物品管理の部屋、看護師の待機部屋は各学部に必要な。
- 2, みんなが自由を楽しめる図書室、体育館、プール設備、安心して利用できるトイレを充実させたいです。
- 3, もちろんバリアフリー、温水プール、身体を整える施設、トイレやベッド、イリゲーターを吊るすのに天井からぶら下げるものなど。
- 4, 学ぶ児童生徒のためのものであってほしい。
- 5, 学校生活が気持ちよくおくれる学校。
- 6, 現在の校舎が、児童生徒の人数や状態に対して、かなり狭い。児童生徒の安全性を担保するため、すべての空間において十分なスペースを確保して頂きたい。肢体不自由部門では、殆どの児童生徒が車椅子を使用している。廊下の幅は、現状の2倍以上は必要と考える。
- 7, 現在の奈良養護学校では、児童生徒数の増加などの影響で、一般教室だった教室をトイレに変えるなどしている状況です。もちろん児童生徒数の増減があり、それに合わせてある程度柔軟に設備を変化させていく必要があるとは思いますが、特にトイレなどの生活における最低ラインの部分は、設備を十分に整えていただきたいと思います。また、重度化に伴い、常時酸素を必要としたり、人工呼吸器を必要とする児童生徒が増加している現状があります。ケアの面も含めて、電源をとることができる場所が複数あると円滑な教育活動に少しでも近づけることができると思います。
- 8, 行事などのことも考えて、できれば知的と肢体病弱部門どちらにも体育館とグラウンドは専用のものがあると良いと思う。特に体育館。
- 9, 施設設備の基本方針や施設の機能の整理のそれぞれに記入されている項目は、不可欠なものとして必ず実現して欲しい。「しようと思ってましたが予算が出なくてできませんでした」ということのないように。特別教室の項目に「音楽室や図工・美術室など利用頻度の高い特別教室は部門ごとに設ける」とあるが、利用頻度で言えば体育館やプールの方が利用頻度が高いのに例に挙がっていない。体育館やプールは分けてもらえないのかと非常に不安である。肢体の児童生徒が使用するのは1階のみにしてほしい。エレベーターやスロープがあったとしても大型の車いすやストレッチャーはもちろん、スタンダードな車いすでも2階以上の教室から避難することは容易ではなく、安全が確保できない。近々起きるといわれる直下型地震が起きたとしても、できるだけ安全に避難誘導できる施設を作る必要がある。ゆとりのある空

間配置は肢体の児童生徒には必要であるが、知的の児童生徒にも不可欠。これから
の知的の児童生徒数増加も念頭に置いて、「今必要なもの」はもちろんのこと、今後
もゆったり使えるような空間配置を。このアンケートの結果(意見を集約したもの)
を、回答の有無にかかわらず、今回アンケートをとる対象となった全員に公表して
欲しい。

- 10, 肢体不自由・病弱教育には平面の立地で、一般的な学校に比べると驚く程スペース
が必要である。これまでいくつも新設校を作ってきて、その度に「人数が増えすぎ
る」問題に直面してきている。最初の試算を「今と同じ」に見積もると、数年でパ
ンクすると思うので、かなり多めに見積もって設計すべき。学校内部の話ばかりで
いるが、教職員の駐車場や保護者・事業所の送迎車の流れについても、しっかり
とした考察が必要。
- 11, 肢体不自由のある子どもたちは車椅子、ウォーカー、立位台などをとめておく場所
が必要。十分なスペースの確保が必要。トイレも広さが必要。プライベートが守ら
れる個室になるような設計であってほしい。教室が狭いと集まって学習することが
できないのでオープン教室を増やしてもらいたい。災害時車椅子などでも避難しや
すい設計であってほしい。
- 12, 車いすの大型化・フラット化が進んでいるのでエレベーターは大きい物を設置して
ほしい。廊下も大型車いすが十分すれ違えることができるほどのサイズにしてほしい。
紫外線対応の窓ガラス、校舎内(教室・廊下・特別教室等々)の冷暖房完備。ホー
ムルーム教室以外に多様な活用に使われる多目的室を複数。防犯対策にも力をい
れてほしい(強化ガラスやブザー、さすまたの常設等々)。災害対策も地域や特別支
援学校の見本となるようなものを設置・配置してほしい。要望はいろいろありますが、
いま、現状の奈良養護や奈良東・奈良西の施設設備をより上回り、優れた機能
性のある物品・備品等の設置をしてほしい。
- 13, 全てがあまり便利になりすぎることが支援とも思わない。一般社会と同程度でどの
ような工夫や介助が必要か考える場も必要と思う。
- 14, 体育館やプレイルームなど、体を動かしたり、広いスペースが必要な活動などが出
来る場所は知肢それぞれに必要な活動などがあると思います。現在も各々の学校で、必要
性が高まり、調整が難しい状況と思われます。昨今の気象状況なども考えると広く
使える空間はできるだけ多くある方が良くと思います。また、フレキシブルに広さ
が変えられるようにできれば、より使いやすくなると思われます。
- 15, 知肢病併設なら、それぞれにプールや体育館を1つずつ用意していただきたい。
- 16, 知的部門と肢体不自由・病弱部門の児童生徒の実態には大きな差があり、どちらの
児童生徒も安全に学校生活を送るためには、部門をわけた校舎や施設が必要である。
ヒヤリハットやアクシデントが起こりうる状況を作るべきではないし、その状況に
ならないための人員増員を求める。また、肢体不自由・病弱の児童生徒には体温調

整が難しい子も多くおり、暑さ・寒さには十分対応できる施設整備が必要と考える。冷暖房は館内すべてに必要であり、トイレにももちろん設置してほしい。プールに関しても、室内で温水であるべきであり、時期については知的部門とわけて実施できるように整えてほしい。

- 17, 地域に開かれた場所にしてください。運動場に、ビオトープ、東屋。災害時には運動場が避難場所になるような、福祉公園。知肢併設の特性を生かして、誰でもが普通に移動できる、暮らせる場所を実験的に取り入れてください。トイレ、手洗い、階段、エレベーターなど。トイレは、教室と教室の間に個室で温水シャワー、誰でも使える場所。肢体の教室には、ベッド。今の奈良養護学校の子どもが床に寝ているのは普通のことではありません。肢体の高等部の生徒には社会の普通を体験して欲しい。あえて、二階にエレベーターで行けるように。
- 18, 模擬作業や実習が取り組める設備カフェ、販売活動のできる実践的スペース(校内の活動と校外の活動がつながる)企業、事業者との面談室オンライン設備含む地域連携地域企業や住民に開かれた学校教職員の休憩室よろしくお願いします。
- 19, いろいろな部屋の確保はされているようで楽しみです。OT や PT など部屋だけの確保ではなく、ずっと人員がつくようにお願いしたいです。例えば和歌山の新設校は、すぐに面談室が教室に変わっていました。新設なので児童生徒数は予想より増えることが考えられます。ゆとりをもって教室確保などお願いします。
- 20, 「3. 施設設備の基本方針」①体育館は2棟必要です。プールは温水で通年使用できるとして、奈良西と同等の25mプールの設置をお願いいたします。また温水プールの維持費の保障は永年確保をお願いいたします。②では、肢体児と知的児が双方ともに、これまで通りのびのびと活動できるよう学習棟を分けるなどの配慮が必要であると考えます。③の事業所車両への配慮はぜひお願いいたします。防犯についても重要であると考えます。よろしくをお願いいたします。尼ヶ辻駅からの通学路を整備することも安全に関する重要な要素です。是非ともご検討ください。④では、高度な断熱仕様、雨水利用システムや太陽光・風力発電など、環境に配慮した施設を目指していただきますようお願いいたします。⑤避難所としての役割を担えるよう、期待しております。「4. 施設の機能の整理」①3-②に同じく。部門間の共用は教育課程に大きな束縛を与えるものとなることは、奈良東の知的部門と高等養護部門が併置されたときに経験済みです。再検討をお願いいたします。使用頻度の高い施設を部門事に分けるということに関してはご英断であると思います。教材室は大変重要です。よろしく御整備ください。全館空調に関しては先見性があるものと感じ入るばかりです。トイレについての言及も頼もしく思います。②喫茶室等夢のある御構想に感謝いたします。④不要な照明やエアコンを一元消灯できるようにしておかれるとよいと思います。設問外ですが、5の校区に関しては早急に検討決定し、公表されることを望みます。また、教員配当に関しては、現行よりも手厚くし

て開校されることを望みます。私見は様々にわいてきますが、今回意見を募っていただきましたことに敬意と感謝を申し上げます。良い学校ができますよう、心より願っております。ありがとうございました。

- 21, このアンケートを踏まえて基本構想案をより具体化した計画を立てていくと思いますが、このアンケートのみで現場や保護者の声を聞いた、ということにはしないでほしいです。現場には職員会議等で基本構想案はこうなっているということは一応降りてはいますが、こういう学校にしてほしいという意見をみんなで考えていこう、という雰囲気には全くなっていません。保護者にしてみたら、一昨年度の12月に山下知事が計画を記者発表されてから今日まで、全く何の情報もないと思われます。具体の施設設備をどうするのか（例えば、体育館が一つでは授業が回らないでしょうし、特別教室やスクールバスは部門ごとに作るのか、または共有して使うのかによっても教育条件は大きく変わります）、知的部門の校区をどう分けるのか（建設予定地は京西中校区で奈良東の校区と重なります。どこで線引きをするのか、大変心配しています）など、具体を出す前にきちんと情報公開をして、現場の教員や保護者の声を吸い上げてほしいです。知的部門の校区割については、過密が急速に進んでいる奈良西の教育環境をよりよくすることが急務だと思います。奈良東に関して過密化が進んでいますが、七条校舎を活用することで現状の改善が期待できます。そのためにも、七条校舎の改修、整備といった教育条件整備が必要不可欠です。新設奈良養護に奈良東の一部の児童生徒が転籍することになっても、ゆとりある教育環境を維持、発展させていくために、七条校舎を有効に使えるための整備計画の策定をお願いします。新設奈良養護は新しく制度化された「特別支援学校設置基準」をふまえて作る学校ですので、21世紀にふさわしい、これからのモデル校になるような学校にしてほしいです。これからの予算折衝、具体の計画策定では大変、困難を極めると思いますが、現場の教員、保護者もより良い学校を作るのであれば、できる協力、バックアップをしていきたいと思っています。そのためにも、ぜひ、計画段階から現場の教員、保護者の声の反映をお願いします。それぞれの部門の教育課程についても、それぞれの学校が作り上げてきたことを踏まえたものを作っていくようにお願いします。最後にこのアンケート結果、公表してください。どうぞよろしくお願いします。
- 22, トイレなどに大人のみ使える呼び出しベルなど緊急時に備えてつけてほしいです。
- 23, プール25m、体育館最低でもバスケットボールコート一面+3m、グラウン最低でも一周200mなど、教育の保証をして欲しい。
- 24, プールは室内プールを希望する。安全に使いやすい遊具を設置してほしい。冷暖房が使える体育館の設置を希望する。プレイルームには大型トランポリンなどの室内遊具を常時設置してほしい。入浴練習ができる設備（水治療室等）を設置してほしい。

- 25, ユニバーサルデザインの学校はもちろん、緊急発生時への対応(どう動いたら良いかなどが見て分かる IT 機器の整備) や毎日の変化(今日の給食とか) なども児童生徒が分かりやすい見える化を進めて欲しい。各施設は障害種別に対応した、例えば運動場の広さやプールの広さ付帯設備等を完備して欲しい。きれいで清潔な校地校舎を維持するために、清掃職員を配置して欲しい。各普通教室、特別教室やトイレの清掃も児童生徒、教職員の仕事でなく、清掃職員を配置して欲しい。
- 26, 雨天時の活動場所の確保。プールは外部委託!! (施設・水質等の管理が大変! 教職員がやるべき仕事ではないと考えるので)
- 27, 学校を建設したら終わりではなく、施設設備が壊れる前に更新したり、壊れてしまったときには、すぐに対応して直してもらえるなど、長期的な視点でサポートのある仕組みをつくっておいてほしいです。
- 28, 昨今、児童生徒数の増加により、クラス編成や教室の分割などで子どもたちの生活の場が圧迫されてきています。現在の状況だけでなく、今後児童生徒数や周辺地域社会がどのように変化していくのかを見据えた設備、環境の整備をしていただきたいです。
- 29, 施設が古すぎて、老朽化が激しい。トイレに行きたがらない生徒もいるくらいです!!
- 30, 施設設備で「自然光の取り入れや風」の部分について:以前見学に行った特別支援学校(新設)ではこの部分を意識した建物でしたが、開校後に周りの環境が変わりいかしきれていないという説明を聞いたので設計時に気をつけた方が良いと感じている。
- 31, 私は現在知的の学校で勤務していますが、肢体の学校での勤務経験もあります。どちらの学校の児童生徒の実態も理解できているつもりです。知的の子どもたちは良くも悪くも「元気いっぱい」という言葉がぴったりです。時にはやんちゃすぎる行動も見られます。一方肢体の子どもたちは、おだやかに彼らのペースで自身の身体と向き合って学校生活を送っています。両者が混在する学校で、もちろん、メリットもあるかと思いますが、デメリットになることも多いかと予想されます。知的の子どもたちの声が、時には肢体の子どもたちにとっては「騒々しく」感じるかと思います。知的の子どもたちは、調子が悪いとき、気持ちが不安定なときは、特に大きな声で泣き叫ぶことも多くあります。その声で肢体の子どもたちがびっくりしてしまい、緊張が高まり体が硬直したり、発作が誘発されたりすると思います。知的の子どもはいろいろなことに興味をもち、衝動的に触ってしまうことも多いです。例えば肢体の子どもたちの酸素ボンベや、胃瘻チューブ、呼吸に関するカテーテルなど、そのすべてが「興味の対象」となり、悪気なく引っ張ったり口に入れたりし、大きな事故になりかねません。その行動を防ぎきれるか、自信はありません。両者の交流といえば聞こえはいいですが、実際はそう簡単にはいかないだろうと思います。今自分が受け持っている知的の小学部の児童と、肢体の子どもとが同じ空間にいた

ら、相手に怪我させないか、事故にならないか、かなり気をつかって気疲れしてしまいそうです。事故や怪我を止められる自信がないため、できれば肢体の子たちとは関わってほしくないとさえ思ってしまいます。結局現場の教員の責任になるのなら、新設のこの学校で勤務はしたくないです。止めきれずに事故や怪我が起きれば、相手の肢体の子どもや保護者に謝罪しないといけない状況になります。謝罪ですめばいいですが、謝罪ですまないことだって起きてしまいそうで怖いです。肢体の子達の場合、その事故が即命に関わることも多いと知っているからです。そのあたりのことを、どうされるつもりですか？現場の教員に丸投げですか？危険すぎて交流どころではないです。丸投げだけはしないでください。誰も転勤したがるなと思います。

- 3 2, 肢体不自由児と知的障害児は環境適応の面において、かなり配慮をしていただかないといけないと思います。知的障害の多動児の騒音に反応して、肢体不自由児が発作を起こすことがあります。それぞれの部門の学校の先生方から意見を集約した上で、教室配置などを検討していったほうがいいです。
- 3 3, 児童、生徒の安全のために、施設の門の施錠を遠隔操作で開閉ができるようにしてほしい。
- 3 4, 周りの道が細いので、果たしてスクールバスが無事に運行が出来るのか気になります。
- 3 5, 重度障害をもっている子どもたちにとって、地域の小中高等学校で学んでいくことは環境的に非常に困難が多いと思います。その環境にはもちろん教員も含まれています。肢体不自由部門の学校に通う子どもたちが安心安全な環境で教育を受けたり、支援を受けながら社会に自立していく力をつけていくことが一番なのだと思います。施設に余裕を持たせて、その余裕の中で地域との関わりや地域支援などお話されるならわかりますが、結局詰め込んだ状態の中で地域との話となっても非常に難しいと感じます。
- 3 6, 障がいの特性毎のクラス分けと、其れに特化した機能を有する施設を造り個々人を育てる。
- 3 7, 知的、肢体の生徒児童が安全でそれぞれの教育目的に沿う施設設備を整えてほしい。
- 3 8, 知的障害の児童生徒と肢体不自由の児童生徒がお互いに安全に過ごせる校舎や教室配置が必要だと感じます。
- 3 9, 奈良養護学校の新設もいいのですが、奈良東養護学校が学ぶ場として、老朽化が限界な状況だと思います。老朽化により、教職員の怪我也多く、児童生徒が学ぶ場として不適です。いつ大きな事故がおきてもおかしくない状況です。日々、トイレが詰まったり壁が剥がれたり、など事務室の方々の業務負担や、予算がつかないからと修理する教員の業務負担も計り知れないものとなっています。プールも老朽化により、使用できない状況です。奈良養護学校の移転を考えると共に、奈良東養護の

あり方も考えてください。

- 40, 列挙されていることが実現されることを願います。これらの内容は、どれもが重要な内容であり、配慮すると良い点です。現存の県立学校にも整えられることを願います。
- 41, 主に普通教室や給食室について、安全に医療的ケアを行える設備(ベッド、物品用カート等)や広さの確保。個々の児童生徒が学習や活動のねらいや内容、体調、特性等に合わせた姿勢や動きを無理なく安全にとれる場所や、座位保持装置等を置ける広さが必要。児童生徒の防災物品や酸素ボンベ、酸素濃縮装置等を、安全に置いてかつ持ち出しやすいコーナーを整備する。看護師の待機場所、控室が必要。トイレ、廊下の空調設備。すべての教室に暗幕がほしい。トイレの設備、空調の充実。学校図書館を設置すること。誰もが読書できる環境の整備(読書バリアフリー)※多様な障害に対応した教育のためだけでなく、将来の自立、社会参加を学ぶためにも必要。肢体不自由、知的、別々の体育館、プールが必要。
- 42, ○体育館、プールは知的障害児と肢体不自由児としては必要な設備、仕様が異なるので部門毎に設置する必要があります。屋内プールは水温と室温の設定温度が知的と肢体不自由では違うので知肢での共用はできません。重度重複障害児においては高めの水温設定、ジャグジーの設置の他、退水後の体温低下を防ぐためにプールサイドや更衣室に赤外線ヒーターのような輻射熱で身体を温める設備を設置する必要があります。水深も子どもの身長ではなく教員が指導する姿勢で安定した姿勢が取れる水深に設定する必要があります。法令でどう決まっているかではなく、重度重複障害児の水泳学習が実際にどのような環境設定で運用されるべきなのかを調べて設計してください。また、電源を必要とする機器を使用している児童生徒も多くいるため体育館でも壁面のコンセントの他、床面にもポップアップ式のコンセントがあると活動の制約を少なくすることができます。○医療的ケア室が必要なのではなく、ホームルーム教室で安全にケアが行えるように各教室の設備を整備すべきです。各教室にケアグッズを洗うための水道、教員が一緒に乗っても大丈夫な強度の3畳程度の大きさの畳ベッドなどが必要です。午前中の水分注入や栄養剤の注入にはインターバルタイムがあり、1回のケアに数十分を要するケースも多いです。どうしても授業時間に食い込んでしまうので授業をしながら注入を行うことになります。教室でケアを行えることが必要です。○保健室に関する項目がありませんが？保健室も部門毎で設置する必要があります。肢体不自由部門では発熱、体調不良で利用する児童生徒が多く、特に医ケア児では保健室のベッドで吸引や吸入の他、酸素吸入、栄養剤や給食の注入を行うこともあるため、ベッド数、ベッドの周りの機器を置くスペースは十分余裕を持って設計する必要があります。○自立を目指した生活訓練室の設備として宿泊学習ができるように浴室の他、簡単な調理実習や朝食の準備ができる程度のキッチンも備えてください。○肢体不自由児校の教育課程は普通科で

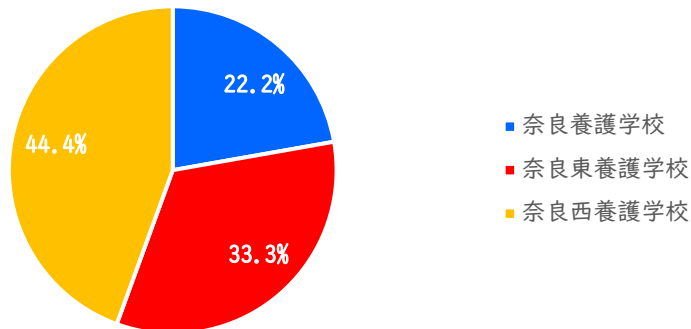
す。小中高の過程に準ずる教育課程を履修する児童生徒が人数は少なくとも必ず在籍します。高等部への進学を検討している生徒にここでは高校の教科の授業はできませんよと言わなければならないようなことにならないように、特に理科は物理、化学、生物の実験ができる理科室を整備してください。○給食室に関する項目がありませんが？。知的に比べて肢体不自由では食形態に配慮が必要な児童生徒が多くいます。栄養教諭は2名必要と思います。刻み食、ペースト食などの二次調理に対応するために厨房にも専用のスペース、設備が必要です。生徒が食事する場所でもペースト食の注入を行う経管栄養の生徒がおり、1時間ほどの時間を要します。知的と肢体は分けた方が良いのではと思います。○スクールバスは何台になりますか？校外学習や宿泊学習で校外へ出る場合、ほとんどのケースで県外へ出かけています。民間会社の車いす固定のできるバスが県内に1台しかないとのことで修学旅行の計画にも支障が出ています。全てのバスとは言いませんので車いす固定ができて高速道路を走れる仕様のバスを複数台配置してください。○職業教育で使用する農場以外に学級活動で栽培活動ができる小さな花壇程度の畑を各ホームルーム教室の前に整備してください。○多目的ホールは、集会活動以外にちょっとしたピクニック気分が味わえるように長方形ではなく円形ドームのような形状のものが欲しい。重度重複障害児においては屋外で活動できる季節が限られているので季節や天気を気にせずに活動ができる開放的な環境の空間が欲しい。

- 43, 教職員の腰痛対策として、リフター設置。増えていく医療機器に対してのコンセント増設。感染対策としての隔離部屋の各学部設置。肢体不自由児に対しプール内スロープ設置。各教室への給湯設備。環境整備としての床暖房。トイレ内十分なスペース及びプライバシーの確保。各学部教職員用トイレ・暖房便座の設置。更衣室内冷暖房の設置。医療的ケア児の安全・健康のため、同敷地内への開業医誘致。防災拠点として自家発電機、防災倉庫、自動販売機等の設置。以上お願いしたいと思います。

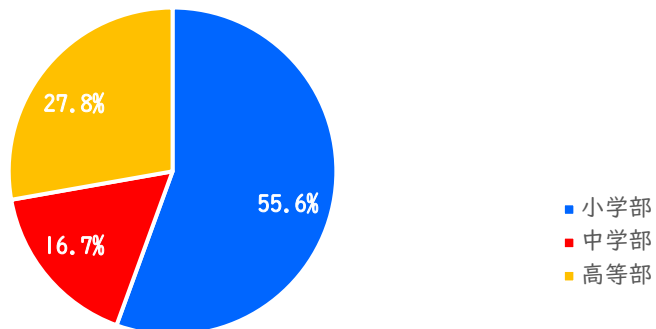
新設する特別支援学校に関するアンケートまとめ

Ⅱ 児童生徒用（回答 18 名／配布 554 名）

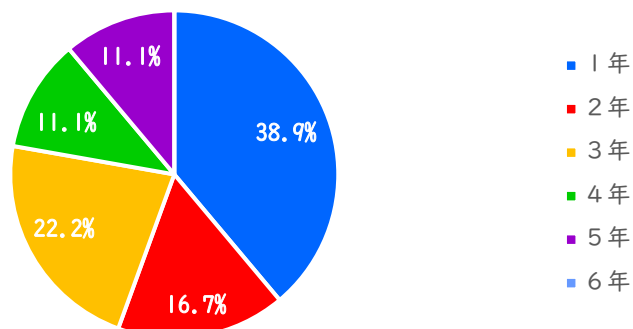
1. あなたの学校を選んでください。



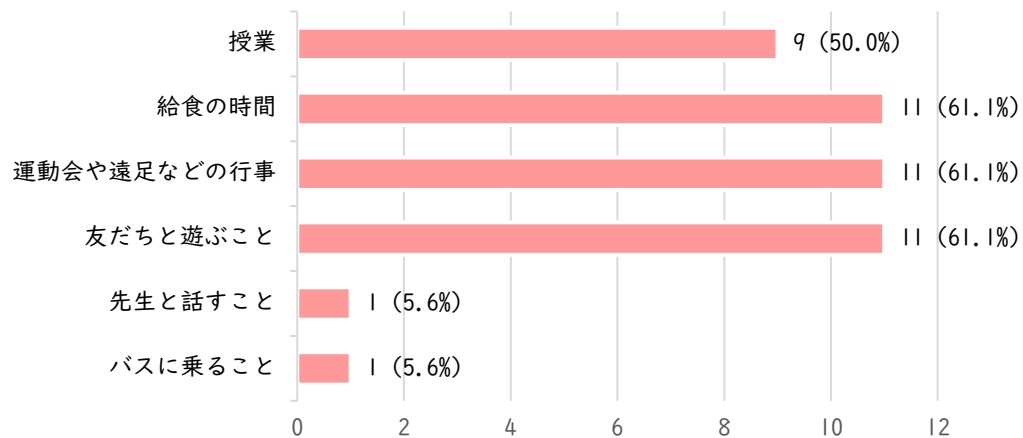
2. あなたの学部を選んでください。



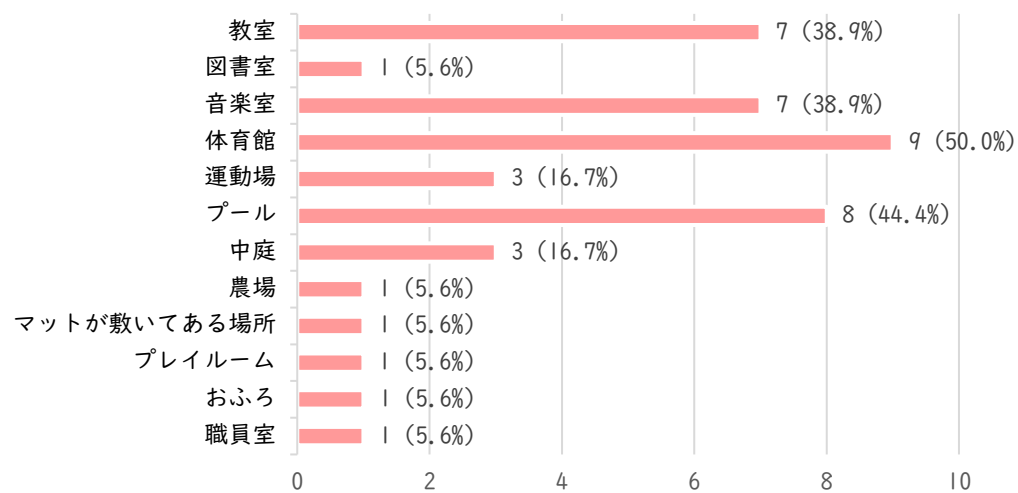
3. あなたの学年を選んでください。



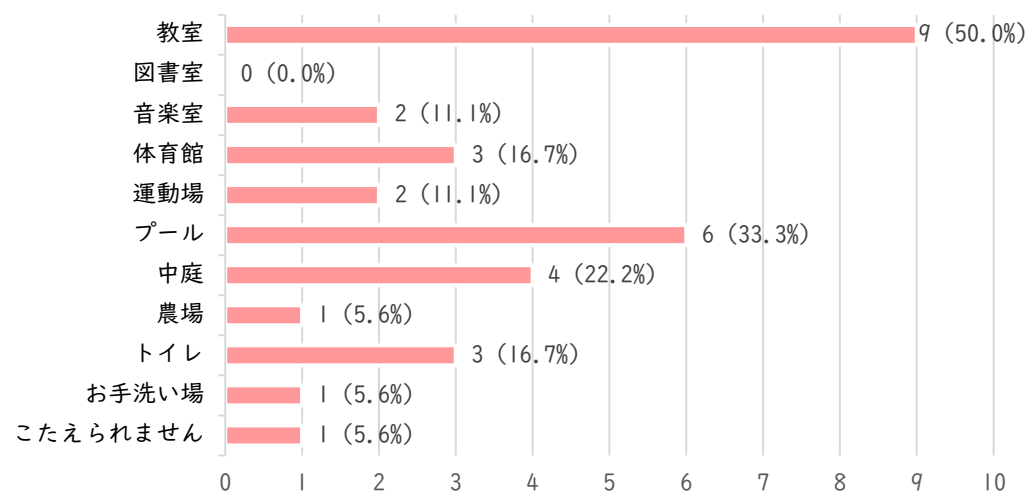
4. 学校で楽しいことはどれですか。※3つまで



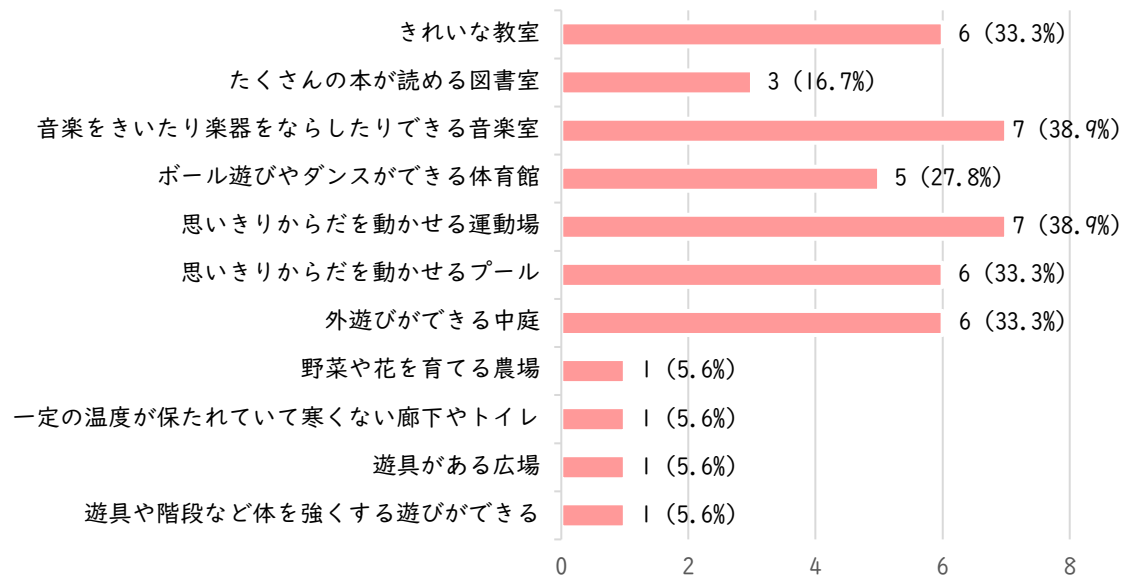
5. 学校で好きな場所はどこですか。※3つまで



6. 学校のなかで、もっとも良くなって欲しい場所がありますか。※3つまで



7. 新しい学校にあったらうれしいと思うものはどれですか。※3つまで



8. 新しい学校で、やってみたいことや楽しみにしていることをおしえてください。

- ☐ 広いマットの上で、寝返りやずり這いで動きまわりたい
- ☐ 綺麗なトイレ
- ☐ 楽しい行事
- ☐ わかりません。

保護者・教職員用アンケート

新設する特別支援学校の基本構想策定にあたり、(仮称)「奈良県立特別支援学校移転整備基本構想案」資料をご覧ください、アンケートにご記入ください。

* 必須の質問です

(仮称)「奈良県立特別支援学校移転整備基本構想案」資料

(仮称)奈良県立特別支援学校移転整備基本構想案

1. 基本構想の背景・目的

県内特別支援学校の現状・課題

- ・ 肢体不自由特別支援学校は施設が老朽化し、児童生徒の障害の重度・重複化により施設が狭隘化してる
- ・ 知的障害特別支援学校の在籍児童生徒数が増加し、今後も増加の見込みである

北部地域の課題

- ・ 奈良養護学校（肢体不自由・病弱）は竣工から44年が経過し、開校当初の施設環境では、児童生徒の障害の重度・重複化への対応が困難な状況となっている
- ・ 奈良西養護学校及び奈良東養護学校（知的障害）では在籍児童生徒数の増加による施設の狭隘化がみられる



対応

- 奈良養護学校を知肢病併置校として移転
 - ・ 多様な障害に対応できる施設環境の整備
 - ・ 知肢病併置校とすることで、北部地域の在籍児童数（知的障害）の適正化
- 移転先は、奈良市平松の旧奈良県総合医療センター跡地

基本構想の目的

（仮称）奈良県立特別支援学校の移転整備の基本計画を策定するに当たり、文部科学省策定の「特別支援学校施設整備指針」を踏まえつつ、肢体不自由教育部門・病弱教育部門と知的障害教育部門を併設した新しい一体型の学校の目指す方向性や適切な規模などの整備の方向性を検討し、まとめるものである。

(仮称)奈良県立特別支援学校移転整備基本構想案

2. 目指す学校の方向性

- ① 共生社会の実現を目指す学校
- ② 一人一人の教育的ニーズに対応し、個々の能力や可能性を最大限に引き出すことができる学校
- ③ 卒業後の自立と社会参加に向けて、一人一人の自己実現を目指す学校
- ④ 健康的かつ安全で豊かに学ぶことができる学校
- ⑤ 地域に開かれ、地域とともにある学校
- ⑥ センター的な役割を果たし、地域の特別支援教育の拠点となる学校

3. 施設整備の基本方針

- ① 特別支援教育を推進するための施設整備
 - ・ユニバーサルデザインを基本とし、教室表示のマークなどわかりやすい表示や色で設置。
 - ・肢体不自由や知的障害、自閉症等のある児童生徒の障害特性や教育的ニーズに対応したきめ細かな施設整備
 - ・体育館、プール等の共用施設の使用について行事や学習活動の回数、時間が充分確保できるよう工夫して整備
 - ・障害種に配慮した棟や教室の配置
 - ・障害種を超えた交流や共用施設の柔軟な利用が可能となる施設配置
 - ・地域における特別支援教育のセンター的機能を推進（PT、OT等を配置し、相談支援に対応できる地域支援センター室を設置）
- ② 児童生徒の主体的な活動を支援する施設整備
 - ・多様な学習内容・学習形態による活動が弾力的に対応できる施設（可変性の高い教室、自立活動室、多目的ホール等）の整備
 - ・職業教育の充実を図るための施設整備（多様な指導内容に対応可能な作業学習室の設置）
 - ・ICT機器の活用を推進できるよう情報通信環境を整備
- ③ 安全でゆとりのある施設整備
 - ・児童生徒の学習及び生活の場として快適な空間となるように整備
 - ・医療的ケアを要する児童生徒の安全に配慮した環境（安全にケアが実施できる医療的ケア室）の整備
 - ・障害特性や多様な行動に対応できる施設（クールダウンスペースの設置、安全に移動できる廊下幅）の整備
 - ・スクールバスや送迎車から安全に昇降できる車寄せ（雨天時に対応できる大型キャノピー）の設置
 - ・登下校時の混雑に配慮した事業所車両の停車スペースの確保や入り口から出口までスムーズに移動できる動線となる通路の整備
 - ・バリアフリー対応の施設の整備
 - ・障害特性に応じた避難経路の工夫（スロープ等）、災害時に対応できる防災性を備えた施設の整備
 - ・防犯対策を施した環境の整備

(仮称)奈良県立特別支援学校移転整備基本構想案

3. 施設整備の基本方針

- ④ 持続可能な社会の実現に寄与する施設整備
 - ・SDGsや脱炭素社会の実現に寄与する環境負荷低減に配慮した人・環境にやさしい施設の整備
 - ・奈良県の脱炭素社会構築の方針に沿い、自然エネルギーや高効率の設備機器等の活用により二酸化炭素の排出を抑制する施設の整備
 - ・環境への配慮から建物内にできる限り自然光や自然通風を採り入れるなど、自然エネルギーの活用を図るとともに、建物の高断熱化、高気密化により空調負荷等を低減できる施設の整備
 - ・省電力及び長寿命の照明の採用、節水型衛生設備等、経済性、耐久性、維持管理の容易性等に優れた設備の整備
- ⑤ 地域と連携した共生社会の実現に資する施設整備
 - ・地域の小・中学校等との交流及び共同学習の場となる施設（多目的ホール）の整備
 - ・地域の住民と交流できる施設（喫茶実習室等を備えた地域交流室）の整備
 - ・グラウンドや体育館について、避難所としての使用や休日等の地域開放を想定して整備
- ⑥ 耐久性、維持管理、更新性に配慮した施設整備
 - ・耐久性に優れた材料選定、維持管理しやすい材料・機器選定、メンテナンスしやすいような建物の設計、設備等の更新に配慮した施設の整備
 - ・運営管理コスト（光熱水費、メンテナンス費用等）の抑制を考慮した施設の整備
 - ・奈良県の公共建築物における県産材の利用推進の方針に沿い、建設コスト抑制とバランスを図りつつ、県産材による木質化を推進

4. 施設機能の整理

- ① 多様な障害に対応した特別支援教育を実施する機能
 - ・障害特性の異なる児童生徒が同じ敷地内で過ごす状況を踏まえ、普通教室等の基本的な学習空間を棟やエリア等で分けて整備する。
 - ・普通教室は部門別に設置し、障害の状態や児童生徒数の増に柔軟に対応できるように整備する。
 - ・音楽室や図工・美術室など利用頻度の高い特別教室は部門ごとに設ける。
 - ・授業や訪問教育で使用する教材を保管するための教材室を整備する。
 - ・体育の学習や水治訓練のため年間を通して使える屋内温水プールを整備する。
 - ・授業中に使用しない座位保持椅子や立位台等の支援機器の置き場を確保する。
 - ・体温調節が難しい児童生徒もいることから、施設内の廊下やトイレ等共用部分にも空調を設置する。
 - ・ベッドや洗濯・シャワー室を備えたトイレを整備する。
 - ・全校行事や体育等の学習を実施するため体育館、グラウンドを整備する。
 - ・多目的ホールは、交流及び共同学習や学校行事等に活用できる広さを確保する。

(仮称)奈良県立特別支援学校移転整備基本構想案

4. 施設機能の整理

- ② 将来の自立・社会参加を学ぶ機能
 - ・日常生活や社会生活の自立を目指した学習に対応できるよう風呂等を備えた生活訓練室を整備する。
 - ・木工室、窯業室、紙工室などの作業学習室のほか、地域交流室に接客、販売等の実習ができる喫茶実習室なども整備する。
 - ・清掃活動の実習を行うための備品等の保管スペースを設ける。
 - ・農場には、雨天時にも対応できるよう温室や農業室（雨天作業室）を整備する。
- ③ 特別支援教育のセンター的機能
 - ・地域の学校、保護者からの教育相談など特別支援教育のセンター的機能の充実を図るため、教育進路相談室や地域支援ルームを整備する。
 - ・教育進路相談室はオンラインでの相談にも対応できるよう情報通信環境を整備する。
- ④ 管理機能
 - ・教職員の円滑な執務のため、校長室、事務室、会議室など、必要な諸室を整備する。
 - ・職員室は全教員が執務できるだけのスペースを確保し、教員同士の情報交換や打ち合わせが行える小スペースを備える。
 - ・書類や備品保管のため、十分な数の書類保管庫、備品庫等を整備する。
 - ・施設管理、入退室管理などの施設管理機能を集約し、一元コントロールできるよう整備する。
- ⑤ 地域と連携する機能
 - ・特別支援学校として真に必要な機能を整備した上で、支障のない範囲で地域開放を検討する。
 - ・地域開放を予定する諸施設においては、児童生徒のセキュリティ確保、施設の安全管理に問題が生じないよう、設計段階から配慮が必要である。

5. 学校概要

- ・障害種別：肢体不自由教育・病弱教育及び知的障害教育
- ・学 部：小学部、中学部、高等部
- ・想定児童数：260名（予定）
肢体不自由・病弱 140名 知的障害 120名
- ・通学エリア
肢体不自由：現奈良養護学校と同じ通学エリア
知的障害：現在の奈良東養護学校及び奈良西養護学校の通学エリアの中で改めて学区を検討する。
- ・想定延床面積：約17,585㎡

1. 1. 回答者の立場を選択してください。 *

1 つだけマークしてください。

☐ 保護者

☐ 教職員

2. 2. 学校名を選択してください。 *

当てはまるものをすべて選択してください。

☐ 奈良養護学校

☐ 奈良東養護学校

☐ 奈良西養護学校

3. 3・お子様の学部を選択してください。ご兄弟がいる場合は、下の学年のお子様について回答してください。（保護者のみ回答）

1 つだけマークしてください。

☐ 小学部

☐ 中学部

☐ 高等部

4. 4．お子様の学年を選択してください。ご兄弟がいる場合は、下の学年のお子様について回答してください。（保護者のみ回答）

1 つだけマークしてください。

☐ 1 年

☐ 2 年

☐ 3 年

☐ 4 年

☐ 5 年

☐ 6 年

5. 5．基本構想案の「2．目指す学校の方向性」について、特に期待する項目 *を選択してください。（3 つまで）

当てはまるものをすべて選択してください。

☐ 共生社会の実現を目指す学校

☐ 一人一人の教育的ニーズに対応し、個々の能力や可能性を最大限に引き出すことができる学校

☐ 卒業後の自立と社会参加に向けて、一人一人の自己実現を目指す学校

☐ 健康的かつ安全で豊かに学ぶことができる学校

☐ 地域に開かれ、地域とともにある学校

☐ センター的な役割を果たし、地域の特別支援教育の拠点となる学校

- 6。 6. 基本構想案の「2. 目指す学校の方向性」についてのご意見や、新しい学校に期待することを入力してください。(自由記述)

- 7。 7. 基本構想案の「3. 施設設備の基本方針」について、より積極的に整備すべきだと思うものを選択してください。(3つまで) *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 特別支援教育を推進するための施設整備
- ☐ 児童生徒の主体的な活動を支援する施設整備
- ☐ 安全でゆとりのある施設整備
- ☐ 持続可能な社会の実現に寄与する施設整備
- ☐ 地域と連携した共生社会の実現に資する施設整備
- ☐ 耐久性、維持管理、更新性に配慮した施設整備

- 8。 8. 基本構想案の「4. 施設の機能の整理」について、より充実させた方が 良いと思う機能を選択してください(3つまで) *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 多様な障害に対応した特別支援教育を実施する機能
- ☐ 将来の自立・社会参加を学ぶ機能
- ☐ 特別支援教育のセンター的機能
- ☐ 管理機能
- ☐ 地域と連携する機能

- 9。 9. 基本構想案の「3. 施設設備の基本方針」や「4. 施設の機能の整理」についてのご意見、また施設について、特に配慮すると良い点などを入力してください。（自由記述）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

児童生徒用アンケート

* 必須の質問です

- 1。 1. あなたの学校を選んでください。（あなたの がっこうを えらんでく ^{*}
ださい。）

1 つだけマークしてください。

- ☐ 奈良養護学校（ならようごがっこう）
- ☐ 奈良東養護学校（ならひがしょうごがっこう）
- ☐ 奈良西養護学校（ならにしようごがっこう）

- 2。 2. あなたの学部を選んでください。（あなたの がくぶを えらんでくださ ^{*}
い。）

1 つだけマークしてください。

- ☐ 小学部（しょうがくぶ）
- ☐ 中学部（ちゅうがくぶ）
- ☐ 高等部（こうとうぶ）

- 3。 3. あなたの学年を選んでください。(あなたの がくねんを えらんでくだ *
- さい。)

1 つだけマークしてください。

☐ 1年 (1ねん)

☐ 2年 (2ねん)

☐ 3年 (3ねん)

☐ 4年 (4ねん)

☐ 5年 (5ねん)

☐ 6年 (6ねん)

- 4。 4. 学校で楽しいことはどれですか。※3つまで選ぶことができます。(がっ *
- こうで たのしいことは どれですか。※3つまで えらぶことが できま
- す。)

当てはまるものをすべて選択してください。

☐ 授業 (じゅぎょう)

☐ 給食の時間 (きゅうしょくの じかん)

☐ 運動会や遠足などの行事 (うんどうかいや えんそくなどの ぎょうじ)

☐ 友だちと遊ぶこと (ともだちと あそぶこと)

☐ 先生と話すこと (せんせいと はなすこと)

☐ その他: _____

- 5。 5. 学校で好きな場所はどこですか。 ※3つまで選ぶことができます。(がっこうで すきな ばしょは どこですか。 ※3つまで えらぶことが できます。)

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 教室 (きょうしつ)
- ☐ 図書室 (としょしつ)
- ☐ 音楽室 (おんがくしつ)
- ☐ 体育館 (たいいくかん)
- ☐ 運動場 (うんどうじょう)
- ☐ プール (ぷーる)
- ☐ 中庭 (なかにわ)
- ☐ 農場 (のうじょう)
- ☐ その他: _____

- 6。 6. 学校のなかで、もっと良くなってほしい場所がありますか。 ※3つまで選ぶことができます。(がっこうのなかで もっと よくなってほしい ばしょは ありますか。 ※3つまで えらぶことが できます。)

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 教室 (きょうしつ)
- ☐ 図書室 (としょしつ)
- ☐ 音楽室 (おんがくしつ)
- ☐ 体育館 (たいいくかん)
- ☐ 運動場 (うんどうじょう)
- ☐ プール (ぷーる)
- ☐ 中庭 (なかにわ)
- ☐ 農場 (のうじょう)
- ☐ その他: _____

7. 7. 新しい学校にあったらうれしいと思うものはどれですか。 ※3つまで選ぶことができます。(あたらしい がっこうに あったら うれしいと おも うものは どれですか。 ※3つまで えらぶことが できます) *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ きれいな教室 (きれいな きょうしつ)
- ☐ たくさんの本が読める図書室 (たくさんの ほんが よめる としょしつ)
- ☐ 音楽をきいたり楽器をならしたりできる音楽室 (おんがくを きいたり がっきを ならしたりできる おんがくしつ)
- ☐ ボール遊びやダンスができる体育館 (ぼーるあそびや ダンスができる たいいくかん)
- ☐ 思いきりからだを動かせる運動場 (おもいきり からだを うごかせる うんどうじょう)
- ☐ 思いきりからだを動かせるプール (おもいきり からだを うごかせる ぷーる)
- ☐ 外遊びができる中庭 (そとあそびが できる なかにわ)
- ☐ 野菜や花を育てる農場 (やさいや はなを そだてる のうじょう)
- ☐ その他: _____

8. 8. 新しい学校で、やってみたいことや楽しみにしていることをおしえてください。(あたらしい がっこうで、 やってみたいことや たのしみにしていることを おしえてください。)

質問はこれで終わりです。(しつもんは これで おわりです。)
ありがとうございました。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム